



東北農政局 和賀中央農業水利事業所
豊沢川農業水利事業建設所長 木村 俊逸

ご挨拶

豊沢川土地改良区の組合員の皆様には、平素より国営豊沢川農業水利事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

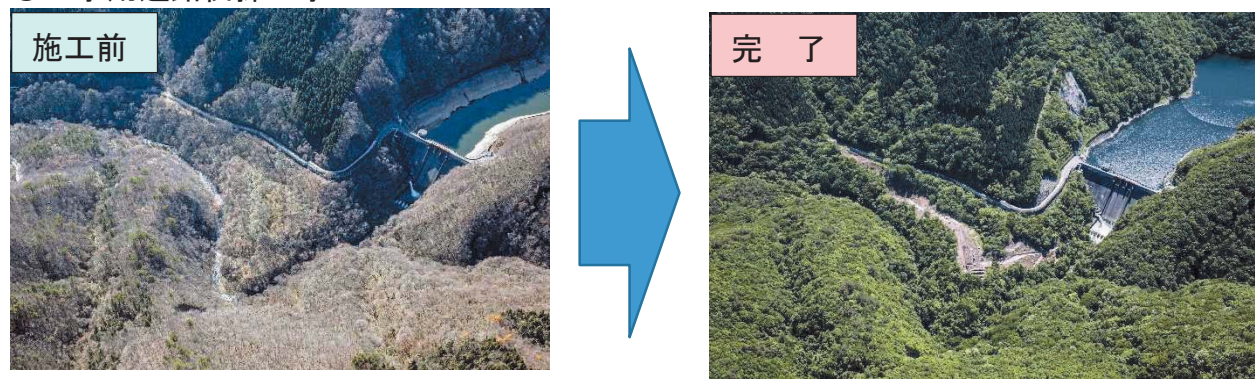
今年は台風10号が東北地方の太平洋側に直接上陸するなど日本に上陸する台風が多く、関係者の皆様には対応にご苦労なされていることと思われま

す。幸いにして当地区には大きな被害も無く、待望の収穫の秋を迎えることが出来そうで、これもひとえに皆様のご尽力の賜であり、心より感謝と敬意を表す次第です。

さて、本事業については、平成27年8月に建設所を開設し、早いもので1年が過ぎました。ダム現場ではこれまでに工事用道路伐採工事が完了し、現在、工事用道路(その1)工事(施工延長:L=380m、工事受注者:菅原建設(株))を進めているところです。

また、今年の8月には国営豊沢川農業水利事業安全祈願祭を開催していただき、関係者の皆様にはお忙しい中ご出席を賜り、大変ありがとうございました。これからも安全に留意して順次工事を実施して参りますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○工事用道路伐採工事



○工事用道路(その1)工事



○安全祈願祭(8月31日)



組合員の皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
まずもって、地域的な集中豪雨や台風の来襲と大型化は異常を超えて、もはや常態化、恒常化しているのではないかと危惧されています。
台風一号の発生が七月三日と観測史上二番目の遅さでありましたが、既に十八号まで発生しており、中でも台風十号は観測史上初めて本県を直撃、沿岸部を中心にこれまた観測史上最大の降雨を記録し、甚大な被害が発生しました。
被災されました皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の早期そして抜本的な復旧、復興を願う次第であります。
さて、今年の用水管理は、代掻き、田植え期に適宜な降雨に恵まれました。例年この時期には一部地域で用水不足が発生し、臨時に揚水ポンプを設置して対応して参りましたが、今年はその必要が無く、その後も昨年比比降雨が有り、用水管理は順調に推移したところであります。
通水開始からの老朽化によるものと想定されるパイプライン破損、揚水機等の故障は二十九件ほど発生しましたが全てについて、管理人、職員が早急な対応により、用水供給に大きな支障を来すことなく済んだところであります。



理事長 平賀 巖

ごあいさつ

今年には適宜な降雨に恵まれ、救われた感がありますが、近年は春の水不足が恒常化の傾向にあります。これは農地集積が進む中、農業機械の大型化や新規需用米の作付拡大等に伴い、必要水量や必要時期に変化が生じてきていることに起因しており、先の圃場整備におけるかんがい能力の諸元と昨今の農作業の実態との差が生じ、用水配りが追いつかない状況となっているためです。
配水施設の更新、反復利用の強化、管理体制の見直し等について、早急に検討していくことが不可欠であります。
こうした中、当土地改良区最大の貯水水源であります豊沢川ダムの改修に係る国営かんがい排水事業「豊沢川地区」が事業採択となり、既に取付道路の整備等の工事が進められております。このダムの改修事業の進捗と併せ、基幹的な用水施設の抜本的な整備につかましても、県当局と一体となって調査・検討を進めて参りたいと存じます。
さて、今まさに農政の新時代と言われていると思いますが、このことは、農業がますます厳しい時代を迎えていることの裏返しとも言えます。
国においては、「産地収益力の向上」や「農村協働力と美しい農村の再生・創造」など六つの政策目標を実現するため、「新たな土地改良長期計画」を閣議決定したところであり、TPP協定への署名を始め、農業・農村を取り巻く情勢の変化に対応した施策を進めています。
いずれ政策目標として掲げられた生産コストの低減を図り、農業者の生産意欲を保持するためには、老朽化が進む農業水利施設とともに作業効率の高い農地の整備を急ぐ必要があります。
現在、優良な農業経営をされている地域は、全てしつかりとした土地改良による基盤整備の上になり立っていることを、広くきちんと説明・衆知していくことが、事業拡大のために極めて大切であり、関係機関と一体となって国に強く要望して参りたいと存じます。
農地の整備と農地の動脈とも言うべき農業水利施設の適切な維持管理は土地改良区に課せられたまさに基本的な使命であります。これを着実に果

たすため、なお一層の努力を傾注して参る所存であります。
さて、平成二十七年年度の各事業は計画どおり実施したほか、一般会計の収支におきましては、三千五百五十万円余の繰越しとなったところでありました。
賦課金の収納状況は、年数回に亘り徴収強化期間を設けて、戸別訪問などを含めて役職員が一丸となって取り組んで参りました結果、未収金は、一千三百一十万円余となっておりませんが、平成二十五年年度と比べ、五百七十八万円減と、収納状況は大きく改善されてきております。
各組合員には、厳しい農業経営が強いられる状況にありますが、賦課金収納の公正、公平の大原則を守り、常に完納していただいております組合員の納付意欲に影響を及ぼすことのないよう、対応して参りたいと存じます。
課題も多く厳しい農業経営が続くものと予想されます。これに連動する形の中で、当土地改良区の運営も厳しさが増すものと存じますが、土地改良区本来の「水土里」の社会資本を整え守るといふ基本的な使命を着実に果たして参らなければなりません。皆様のご協力の下、役員一丸となって努力して参りたいと存じます。
末筆になりましたが、これから先天候に恵まれて、無災害で秋の取り入れが進められますことと、皆様方の益々のご活躍をご祈念申し上げますことと、ご挨拶いたします。

